

健康教育実践記録

第 3 学年 1, 2 組	指導者	今宮 直美 吉竹 敦
題 材	健康と手洗い	
ねらい	手洗い実験を通して、健康に生活するためには、手洗いが大切であることや正しい手洗いの方法を知り、生活に生かそうとする態度を育てる。	
本時の活動	(実践日 平成 27 年 6 月 16 日 火 曜日 第 5 校時)	
児 童 の 活 動	児童の主な反応・様子	
1, 給食、掃除、昼休みを終えて帰ってきた児童に、授業の始まりを伝えるとともに、給食前の一場面を絵にした資料を見せ、興味関心を持たせる。 ※外で遊ばなかったから手を洗わないでいいか。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとっては、給食前の手洗いについてのことなので、問題意識を持つことができた。 ・きれいに見えても汚れていること。普段何気なく触っているものには、ばい菌が付いていることを写真を見て驚いていた。「ばい菌に触れることが病気につながる。」ということから、手洗いの必要性を改めて意識することができた。 	
2, 身の回りに付いたばい菌を見る。(手すり、ドアの取っ手、動物など)		
3, めあてを確認する。		
ばい菌を落とす手洗いの方法について考えよう。		
4, 手洗い実験をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・列ごとに実験する。 ・実験で気づいたことや感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各列ごとに実験係は[①洗わない②さっと水につけるだけ③10回洗う④30回洗う]に分かれておく。チェッカー係は、学習シートに汚れの付いているところを色鉛筆で色を塗る。 ・まほうの液をつけた後に、番号に分かれたとおり手を洗い、イソジンの液につけた後の反応をチェッカーは調べる。 ・色の付き方で変化がよく見え、普段の洗い方では汚れが落ちていないことに気づくことができた。 ・汚れ(ばい菌)が残っていたところに気づき、石けんを使って重点的に手洗いをすることができた。また、手洗いの重要性に気づくことができた。 	
5, どんな洗い方がよい洗い方かを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・石けんを使った良い洗い方を知る。(資料) ・みんな石けんを使って手洗いをする。 		
6, 感想を書く。		
指導を終えての考察		
<p>普段何気なく手を洗っているが、色々なところにばい菌が付いていることが魔法の液(イソジン)を使っての実験で、よく理解できたようだ。児童は、実験したことにより、手洗いの必要性を実感することができたと言う感想が多くあった。給食前の手洗いの様子を見てみると、手首や指の間も石けんを使ってしっかり洗うようになってきた。継続指導を行っていきたい。</p>		